

「家族の絆―喪失から再生、そして新生へ!」



梶井祥子先生

北海道武蔵女子短期大学において、「人間と家族」現代の家族」などの講座を担当している教授の梶井祥子先生を講師にお招きして、江別生涯学習インストラクターの会主催の講演会が、去る2月20日野幌公民館にて行われました。

普段は、学生達に講義をされるため若干対象年齢が異なる大人たちに素敵な笑顔で「家族の変容」について話されました。

まず、戦後日本の家族とその変容について、昭和25年から現在に至る社会環境の変遷、婚姻率・離婚率・出生率、そして平均寿命など

の数字によるわかりやすくまた非常に納得のいく分析には、参加者の皆様が大きくつなずき、共感を持って理解されていたようでした。またそのなかで、興味深かった点としては、「あなたにとって1番大事なものは何ですか?」という質問に「家族」が大切という答えが、1978年以降1位の座を守り年々支持率が上昇しているという点がありました。

家族力の弱体化、家族ネットワークの弱体化などという現実や「団欒」という言葉が社会から消えてゆく現実の中で、求められている「家族」のありかたとは?

「都市化が進行する社会にあつて、家族の形が多様化していることに対し『温かなまなざし』をもって理解しあうことは、特別な目で見られることを余儀なくされた子ども達への理解を進めることになる。受け止

めてくれる大人や継続的に支えてくれる人の存在が、救いとなる事実がある。」と、地域や周囲の理解力とかかわりの重要性を話され、家族だけ、地域だけでは成り立たないのが家族であり支援できる地域の力の必要性を説かれていました。



1番大事なものはなんですか?

また、1つのキーワードとして、「家族は記憶の共同体」とし、共有する記憶があることは、「子どもの時から保存されている、こうした美しく神聖な思い出こそ何よりも1等よい教育なのであり過去においてそういう追憶をたくさん集めた者は一生すぐわかれるので

す。」(ドストエフスキー)という引用にも一回大いにうなずいたのでした。「家族、現在はずもも末婚率が増加し、さらに希薄な人間関係ができてくるのかも知れません。それでも人は人と関わることで希望を見出すものなのです。」

改めて考える機会となった「家族」の存在、どうぞ皆様、ご家族との心豊かな楽しい思い出を沢山作ってください。日常の中にこそ大切なものがあるのですね。

(松山 和子)



キーワード「家族は記憶の共同体」

江別市生涯学習推進協議会支援事業

本協議会では、市民の主体性に基づいて学習活動を活性化し、本市の生涯学習の振興を図るとともに市民の豊かな生活と生きがいを高めていくことを目的に、市民の学習要求に基づいた学習機会の提供など様々な事業を行っておりますが、そのひとつに「支援事業」があります。

この支援事業は、本協議会の目的達成はもとより、会員活動の活性化を図ることを目的に、会員が行う講演会や発表会など、生涯学習の推進を図るための事業に対し、その費用の一部などを支援するものです。そこで平成21年度に支援を行った事業をご紹介しますので、会員の皆さん、是非今後とも本事業をご活用ください。

ご活用ください!

3B体操江別サークル

ねりんぴつく協賛

3B体操大会

2009年7月3日に札幌市内の「きたえーる」にて同大会が行われ、江別からは26名が参加しました。貸切バスに揺られ、車内で雰囲気も盛り上がり、さあ到着したら体操です！マスコットキャラクターの「うっさん」と一緒にリズムに乗り、グループごとの発表で緊張も味わい、全道各地から集まった仲間500名と交流し、記念に残る汗をかきました。

(佐藤ひとみ)



「うっさん」を囲んで体操です!

江別市赤十字奉仕団

創立50周年を迎えて

江別市赤十字奉仕団は、昭和34年10数名の団員で発足、現在は江別、野幌、大麻の3分団210名の団員が赤十字奉仕団員の信条のもと、日々活動しております。平成21年11月10日江別市民会館におきまして、江別市赤十字奉仕団創立50周年記念式典・祝賀会を開催することが出来ました。多数のご来賓の方々のご出席をいただきお祝いの詞を頂戴し、日本赤十字社北海道支部より50年の感謝状を授与されました。その後、団員の日舞・赤十字に関するクイズ・参加者全員での合唱と楽しい思い出に残る1日でした。

私たち団員も高齢化が進み、若い団員の入団を切に希望しております。

これからも、信条に基づき市のイベント・社会福祉協議会のイベント・老人福

施設の訪問、介助・託児・数多くの募金活動・災害寄付・救護講習の参加等、この50年を機に更に60年に向かって団員一致協力し、奉仕活動が出来ますよう日々研鑽、努力していきたいと思っております。

(委員長 渡邊 京子)



「更に60年に向かって研鑽、努力を…!」

江別認知症の人の家族を

支える会

当会は平成元年に創立されまして、お陰様で20年が経ちました。その記念事業

としまして、記念誌を作る事となり昨年12月に完成いたしました。

20年継続出来ました事はひとえに会員皆様のご協力と、関係機関のご指導・鞭撻によるものと感謝いたしております。

これからも介護家族の皆様のお力になるべく「家族の集い」「相談電話」「やすらぎ支援」等で活動してまいります。

簡素ですがとても良い記念誌が出来ました。ご協力に厚くお礼申し上げます。(事務局長 堀田佐智子)



家族の集い「リフレッシュ日帰りツアー」

江別市芸能赤十字奉仕団

この全道芸能大会は名寄市、旭川市、岩見沢市、江別市、札幌市、倶知安町、黒松内町で組織され、持ち回りで大会を開催しております。昨年は江別市が開催地、5月24日大森えぼあホールを会場に式典、芸能発表が行われ、無事終える事が出来ました。地元でしたので午前13演目、午後16演目と全員で出演、満席のお客様から盛大なる声援をいただきました。

今後とも団員の皆様とともに、芸能を通し市民の皆様の支援を賜り、地域に奉仕して参りたいと思います。

(委員長 加藤 高)



民謡、舞踊、マジックショー…

江別口中友好の会

中国医学伝統自然療法「陶氏療法」の創始者で医学博士の陶恵栄先生をお招きし、中国文化講演会を10月24日(土)野幌公民館で開催しました。その講演要旨です。

【医学の歴史】

「陶氏療法」は予防医学の最先端で中国医学5千年の伝統療法を培っている。

【西洋医学と中国医学】

西洋医学の特徴は病気を対処して治療する、即ち病気があったら病名をつけて治す。中国医学は治療医学のほかにも予防も入っている。そこで西洋医学と中国医学の伝統医学が融合できることが最善である。

【生きるための3要素】

生きるためには3要素が不可欠である。食べ物・水・空気であり、人間の健康に影響するのが食べ物より水、水より空気となる。

(上田 正直)



「陶氏療法とは……」聞き入る参加者

江別まつことええ & 北海道情報大学

8月、名古屋市の「まつことええ」に45名で参加してきました。

踊っていると「まつことええ」と熱い声援があがったり、「ファンです。生のまつことええ」を観に来ました！と応援に駆けつけてきてくださった方も多数いて、大変ありがたく心強かったです。30度を超える暑さでしたが、感謝の気持ちを力に変えて、全員笑顔で精一杯踊り切りました。現在は「4年連続ファイ

ナル進出、そして夢の大賞」に向かつて練習に励んでいる毎日です。新入会員もまだ募集中です。

(柏木 真紀子)



ヤサエンヤサーのまつことええのソーランよー

NPO法人 えべつ協働ねつとわーく

人形劇団「クラルテ」を

観る会実行委員会

《会場》江別子ども劇場・

ドラマシアターど

もIV

《とき》平成21年7月27日

「人形劇団クラルテ」を

江別でぜひ観たいと実行委

員会を組み、昼夜二回の公演を行いました。自然の大地の中で小さな虫達の命の営みをスケール大きく演じ、会場いっぱい詰めた大勢の参加者に感動を与えた舞台になりました。人形劇は子どもだけのものではなく、大人も共に観て、楽しさと感動を分かち合おうという目的を達成することができました。

この公演は生涯学習推進協議会の支援を頂いて実施することができ、感謝しております。

(古川 淳子)



生の舞台の迫力に、みんな感動です

私と生涯学習

えべつ手話の会

手話通訳士 菅原ひとみ



出会いとは不思議なものです。もしあの時出会っていなければ…：大切な人との出会い、大切なものとの出会いが甦ります。

縁あって横浜から江別に引越してきました。若い頃少々覚えた手話を又学びたく「えべつ手話の会」に入会したのが平成5年の春です。今から十数年前になります。学習しても学習しても「これでよし」ということのない奥深い世界に今私は夢

中です。

ピアノ教師という「音のある世界」で長い期間仕事を続けていた私にとって「音のない世界」との出会いには衝撃的なものでした。手話の世界に飛び込んで間もない頃出会った聴力障害女性の忘れられない言葉が二つあります。

「私は小さい頃音楽が大好きだったの。聞こえなくなっただけで音楽が楽しめなくなっただけは残念なこと。でも、何が一番残念かという娘の声が聞けなくなった事かな？死ぬまでに一度でいいから聞きたいな」

「あなた達耳の聞こえる人は手話の勉強に飽きたら『もう辞めた』っていつでも投げ出せるけど私達耳の聞こえない者は一生辞められないの。是非永く続け

て欲しいな」

単なる興味から始めた手話でしたが知れば知るほど聞こえない人達の心の声が聞こえてきます。その時からずっと一緒に歩んでいくと心に決めました。

「ボランティア」という手話は両手の2指を歩くようにして同時に前に出して表現します。共に歩む＝ボランティア

「平等」(差別のないこと)という手話は両手の親指と人差し指を合わせて左右に開きます。この「平等」の手話と「普通」の手話表現は同じです。差別のないことが普通で当たり前の社会…このことを知った時の手話って素晴らしいと感動したことが昨日のことのように思い出されます。

6年前手話を通して音楽



「手話歌あやとり」歌の表現にチャレンジ!

の楽しさを伝えたいという熱い思いから、「手話歌あやとり」の活動を始めました。聴覚障害者、健聴者が共に集い童謡から演歌まで大好きな歌の表現にチャレンジしていきます。

手話⑤学ぶことからスタートした私ですが今は手話⑥学んでいる自分に気付きました。

これからも素敵な出会いを求め生涯学習し続けたいと思います。

あ・と・が・き

「ら・ら・ら」も皆様のおささで号数を重ねております。会員活動のイベント情報、活動発表会のご案内等、何か「コマ」でも心に残るようにと知恵をしばっております。

今年度も最終版になりました。これからも期待される「ら・ら・ら」に皆様のあたたかいお声を届けて下さい。ご協力ありがとうございます。ありがとうございました。

(丹野孝子)

江別市生涯学習推進協議会のホームページをご利用ください

加盟団体の活動紹介やイベントカレンダー、指導者情報・団体情報など盛りだくさんの内容です。

江別市生涯学習推進協議会

検索